

国際交流つうしん



P.5 国際理解セミナー



P.6 多文化子育てサロン

目次

- P.2 「千葉県外国人活躍・多文化共生推進プラン」について
- P.3 地域日本語教育フォーラム / 国際理解セミナー（サヘル・ローズさん講演）
- P.4～5 事業報告（令和6年10月～令和7年2月）
- P.6 多文化子育てサロン開催報告 / 令和7年度事業計画
- P.7 JICA千葉デスクのページ
- P.8 千葉県から世界へ！ ～ルワンダ共和国～

広告

「日本語を教える」としたら **スリーエーネットワーク**



好評発売中

背景にある考え方を知るために

**日本語教師が知りたい
敬語と待遇コミュニケーション**

坂本恵 著 1,320円(税込) A5判 132頁

待遇コミュニケーションという枠組みから、敬語の形式や役割、敬語が使われる言語行動について解説した参考書。電子書籍も発売中。

立ち読みはコチラから→



最新刊や教材の使い方動画の情報等は <https://www.3anet.co.jp/>

広告

入管手続きは行政書士にお任せ下さい。

申請取次行政書士に申請依頼をすると、申請人本人は **出入国在留管理局への出頭が免除**されるので、**仕事や学業に専念**することが可能です。

お問い合わせは…



千葉県行政書士会

www.chiba-gyosei.or.jp/



〒260-0013 千葉県千葉市中央区中央4丁目13番10号
TEL: 043-227-8009 FAX: 043-225-8634



策定の背景

- 県では、外国人の増加等を背景に、令和2年に「千葉県多文化共生推進プラン」を策定し、多文化共生意識の醸成や、コミュニケーション支援などに取り組んできました。
- また、令和6年1月には、誰もがその人らしく生き、活躍できる社会の実現を目指す「多様性尊重条例」を施行し、県行政のあらゆる分野で様々な取組を進めています。
- このような中、成田空港の第3滑走路の新設を含めた更なる機能強化や、育成就労制度の創設などにより、今後も外国人の増加が見込まれることから、こうした動きを県内の活力につなげていくため、同プランを改訂し、新たなプランを策定しました。

目 標

(基本目標)

誰もが活躍し、安心して暮らすことにより、将来にわたり社会の活力を生み出せる県づくり

(施策目標)

I 一人ひとりが様々な違いのある個人として尊重され、その人らしく活躍できる県づくり

- ▶ 外国人が働き手として活躍できるよう、企業等とのマッチング機会の創出等を通じて雇用・就労の促進を図るとともに、共に暮らす地域社会の担い手として活躍できるよう、多文化共生意識の醸成を推進していきます。

II 国籍及び文化的背景などにかかわらず、共に安心して暮らせる県づくり

- ▶ 外国人県民向けの相談窓口や地域日本語教室の整備等の総合的なコミュニケーション支援をはじめ、子どもの教育、防災、住宅、医療、保健、福祉等の各分野における支援が充実するような取組を推進していきます。

III 様々な主体の連携により、活躍・共生を推進する県づくり

- ▶ 施策目標 I 及び II を達成するための体制をつくるため、市町村、市町村国際交流協会、ボランティア団体・NPO 等の関係団体のほか、大学や日本語教育機関等との連携・協働を推進していきます。

外国人の活躍や多文化共生の推進に関する取組

外国人材活用支援事業

令和6(2024)年8月に、幕張メッセにおいて、外国人留学生等の県内での就職・定着を支援するため、県内企業とのマッチングに向けた「合同企業説明会」を開催しました。

当日は、採用に積極的な参加企業が自社の魅力についてPRを行い、各企業のブースでは、仕事の内容や勤務条件などの説明が行われたほか、特別企画として、就職活動の進め方や企業分析などについて、専門家に相談できるブースも設けられました。

参加者は、企業の採用担当者の話に熱心に耳を傾け、積極的に質問をしたり、就職活動に向けて連絡先を交換したりするなど、相互に交流を深める貴重な機会となりました。

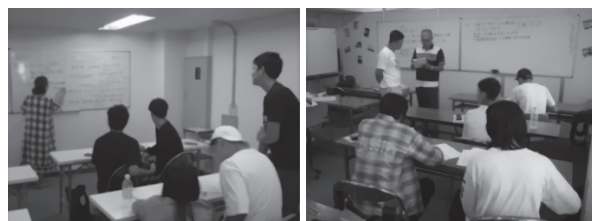


企業から説明を受ける外国人留学生

外国籍の子供の日本語学習等支援事業

県では、令和6(2024)年度から、義務教育年齢を超過した外国籍の子どもが高校に就学できるよう、日本語や教科の指導、受験準備など、入学試験に向けた指導を行う団体への補助を行っています。

令和6(2024)年度の補助団体である「NPO法人多文化フリースクールちば」では、日本語、数学、英語の授業のほか、小論文や面接対策、進路相談などを行っています。様々な国籍を持った子どもたちが教室に集まり、先生と一緒に、日々、高校への進学を目指して、勉強しています。



NPO法人多文化フリースクールちばの日本語クラスの様子



【URL】千葉県外国人活躍・多文化共生推進プラン

<https://www.pref.chiba.lg.jp/kokusai/press/2024/tabunka-plan2024.html>



地域日本語教育フォーラムを開催しました！

(10月25日@幕張テクノガーデン)

イベント
報告

地域日本語教育を広く知ってもらうために、地域日本語教育フォーラム「知ろう 考えようこれからの日本語学習支援のかたち」を開催しました。千葉県では初となるイベントで、冒頭には県国際課から県の取組について説明がありました。続いて、文部科学省国語教育調査官の増田麻美子氏による基調講演では、日本語教育全体の動きについて、在住外国人に関する統計データと共に丁寧に説明いただいた上で、地域日本語教育の役割や支援者に求められる姿勢などについて熱い想いを語っていただきました。

基調講演の後は、県内で活動する3つの日本語教室より活動紹介をいただきました。いずれの教室も、その地域や学習者のニーズをしっかりと把握し工夫を凝らした活動を行っており、これから支援を始める人にとっても、既に支援に従事している人にとっても非常に参考になるお話でした。また活動紹介後に行われたパネルディスカッションでは、活動紹介の発表者3名に引き続き登壇いただきました。参加者から事前に寄せられた質問に答えていただいた他、支援する上で大事なキーワードとなる「連携」についてディスカッションしていただきました。フォーラム終了後は参加者同士が名刺交換をする姿も多くあり、支援の輪が広がる様子が見られました。

参加された方からは、「さまざまな立場の人の話が聞けて参考になった」、「日本語教室に参加したくなった」、など嬉しい声が多数寄せられました。今後も皆様のご意見を聴きながら、千葉県の地域日本語教育をより充実させていきたいと思っています。



増田氏による基調講演の様子



パネルディスカッション



国際理解セミナー（共催：千葉県）

(12月8日@千葉市民会館)

千葉県国際交流センターでは、千葉県と共催で、12月8日（日）に千葉市民会館小ホールにて、国際理解セミナーを開催しました！

第1部は、俳優・タレントのサヘル・ローズさんをお招きし、「すべての人がその人らしく活躍するために～多文化共生社会の実現へ～」をテーマとして、講演を行いました。サヘルさんからは、戦争のさなかに両親を失い孤児院で育ち、養母とともに8歳で来日され、その後も日本で家庭や学校でつらい思いをされたこと、その中でも素晴らしい出会いの数々があり、いろいろな人に支えがあって成長できたことなどについて語っていただきました。また、「外国人」の立場から、生活習慣や文化の違いなどがあっても、すべての人は根っこ部分は同じで、人を人として見るのが大切だという多文化共生について考える上で大切な視点についてもお話いただきました。

第2部は、千葉若潮少年少女合唱団の皆さまに、クリスマスソングメドレーや「サウンドオブミュージック」の楽曲の合唱をしていただきました。子どもたちの澄んだ歌声が観客を魅了し、最後は会場が一体となり「エーデルワイス」を全員で合唱して締めくくりました。

参加者からは、「サヘルさんの壮絶な体験からくる言葉にはとても説得力があり、とても感動した」、「サヘルさんの前向きなメッセージを聞き、自分ができることを考えていきたいと思った」、「子どもたちの元気な歌声にパワーをもらった」などの感想が寄せられました。



講演をするサヘル・ローズさん

◆日本語学習支援と文化理解を学ぶ講座in 千葉県（全5回11／7, 14, 21, 28, 12／5）

日本語学習支援に関心がある20名の方が、「市民活動としての学習支援の方法」、「外国につながる子どもの現状と課題」等についてオンラインにより学びました。受講者からは、学習者とボランティアが対等な関係で相互理解を深めることや、無意識のステレオタイプを取り払うことの重要性を認識できたとの意見が多数出ました。また、本講座で学んだことをボランティア活動に活かしたいとの声も複数聞かれ、受講者の今後の活躍に期待が持てる内容となりました。



◆災害時外国人サポーター養成講座@四街道市（11／4）

11月4日に、千葉県・四街道市・四街道市国際交流協会と共催で、四街道市役所にて災害時外国人サポーター養成講座を行いました。講座では、災害時にも外国人に情報が伝わりやすい“やさしい日本語”について学んだり、能登半島地震での支援活動についての報告を聞き、その後、災害時に外国人を支援するための「多言語支援センター」での活動を想定したグループワークなどを行いました。市内在住の外国人にも参加いただき、日本での災害の基本的な知識を学んでいただきました。

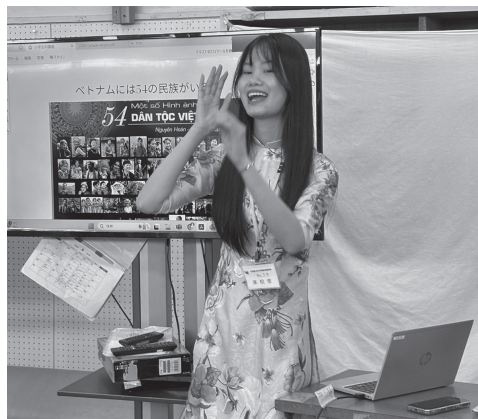


◆多文化共生社会理解促進講座

県内の小中学校や医療機関、福祉施設等で、外国人を講師に招き、交流しながら外国について学ぶ「多文化共生社会理解促進講座」を行いました。12月9日に実施した松戸特別支援学校では、カナダ出身のスカリーさんとベトナム出身のグエンさんに講座を担当いただき、子どもたちは興味津々な様子で講座を受講しました。英語が得意な子、ベトナムの国歌が歌える子、言葉の壁を超えて恥ずかしがらずに質問できる子、素敵な笑顔でアイコンタクトを取ることができる子など、それぞれのやり方で講師とのコミュニケーションを楽しんでいて、教室の中で“多文化共生”を感じることができました。

10月～2月の 多文化共生社会理解促進講座

- 10／16 佐倉市立間野台小学校
- 10／29 千葉市立有吉小学校
- 11／14 浦安市立浦安中学校
- 12／ 9 鎌ヶ谷市立南部小学校
- 12／ 9 千葉県立松戸特別支援学校
- 1／29 我孫子市立高野山小学校



ベトナム人講師の
グエンさん（12月9日）

◆外国人相談基礎知識研修（オンライン）（1／23）

外国人相談業務に従事されている方や、日頃ボランティア活動などで外国の方と接する機会の多い方向けに、2名の講師をお招きして基礎研修を実施しました。

東京出入国在留管理局在留支援部門の加藤美佐子氏からは、出入国在留管理局の業務内容や各種手続き等の「在留管理制度の基礎知識」について、また、NPO法人日本アジアハラル協会理事のサイード・アクター氏からは、「サイードさん、日本に暮らす～ムスリムのサイードさんが感じること～」と題し、ムスリムの生活習慣について、ご自身やご家族の体験も交えた講師ならではの大変貴重なお話を聞くことができました。

◆オンライン日本語クラス（全5回1／24, 31, 2／7, 14, 21）

県内在住の外国人の方々を対象に、オンライン日本語クラスを実施しました。講師は、地域日本語教育コーディネーターの油川氏と、日本語教師の資格を持つ2名が担当。さらに、令和5年度・令和6年度の基礎講座を修了した3名が日本語学習支援者として参加しました。



クラス開催前には、講師と支援者向けに事前研修を実施し、指導内容について確認を行いました。初回クラスには9名の外国人の方々が参加し、日本語レベルはさまざまでしたが、自己紹介や趣味、週末の出来事、近所の施設、健康管理、災害時の備えなど、身近な話題について日本語で会話をしました。受講者の中には、積極的に質問をしたり、他の参加者の発言を促したりする方もおり、全員が活発にコミュニケーションを取る場面が多く見られました。終始和やかな雰囲気の中、充実したクラスとなりました。

◆国際理解セミナー@千葉市文化センター（2／2）

JICA東京と共催で、第一部は講演会、第二部はJICA教師海外研修の報告会の二部構成で開催しました。

第一部は、NPO法人ルワンダの教育を考える会代表の永遠瑠（とわり）マリールイズさんに、「ルワンダってどんな国？～内戦を生き抜き、日本に暮らすマリールイズさんに聞いてみよう～」と題した講演を行っていただきました。1994年に内戦が勃発し、マリールイズさんが子ども3人を連れて難民キャンプに逃れ、多くの偶然が重なり日本に移住することができたこと、来日後日本に文字を読むことができる人がたくさんいて驚いたことから教育の大切さを認識し、ルワンダに学校を建設したこと、今ではルワンダは“アフリカの奇跡”と呼ばれるほど復興を遂げ、治安もよく観光でも人気があることなどルワンダの魅力についてもお話いただきました。



第二部の報告会では、学校の先生方が、現地の子どもの立場に立ったらどうかをディスカッションしながら考える授業など、研修の成果を受けて行った工夫を凝らした授業について発表されました。

◆外国人相談担当者意見交換会（オンライン）（2／19）

県内で外国人相談や生活支援に従事する担当者を対象に、講演及び意見交換会を開催しました。講演では千葉県弁護士会外国人の権利委員会委員長の立花朋弁護士から「外国人の家庭内トラブル～法律家の視点から～」と題し、日本人と外国人の離婚や、昨今増えている外国人同士の離婚についてお話しいただきました。外国人が関係する離婚の場合、適用される法律や日本の裁判所の利用等、注意が必要となり、事例を交えて説明いただき、相談対応の参考になりました。後半は①相談員同士の情報共有、②相談員の研修・スキルアップ、③困難ケースへの対応、④関係団体との連携、とテーマ別にグループに分かれ、意見交換会を行い、日頃の相談業務における課題や工夫等を共有し、オンラインではありますが、互いに顔が見える関係となり、今後の連携が期待されます。

令和7年度 外国人のための無料法律相談の日程が決定しました

千葉県国際交流センターでは、千葉県弁護士会・千葉県行政書士会と協力し、原則第1・第3月曜日に無料法律相談会を実施しています。令和7年度の日程は以下の通りです。通訳をつけることもできますので、詳細は予約時にお問い合わせください。

第1回	4月7日（月）	第7回	7月7日（月）	第13回	10月6日（月）	第19回	1月9日（金）
第2回	4月21日（月）	★第8回	7月22日（火）	第14回	10月20日（月）	★第20回	1月19日（月）
第3回	5月7日（水）	第9回	8月4日（月）	第15回	11月4日（火）	第21回	2月2日（月）
★第4回	5月19日（月）	第10回	8月18日（月）	★第16回	11月17日（月）	第22回	2月16日（月）
第5回	6月2日（月）	第11回	9月1日（月）	第17回	12月1日（月）	第23回	3月2日（月）
第6回	6月16日（月）	★第12回	9月16日（火）	第18回	12月15日（月）	★第24回	3月16日（月）

★…行政書士相談あり

日本人でも出産や子育ては不安も大きく、心細いことも多いものです。文化背景や医療の事情や教育制度が全く違う外国出身の女性たちが日本で出産・子育てをするというのは、想像を絶する苦労があるのではないのでしょうか。そこで、千葉県国際交流センターでは、外国人のママ・パパの出産や子育てを応援する取り組みとして、NPO法人Mother's Tree Japanと共催で、1月15日と2月13日に多文化子育てサロンを開催しました！サロンには、インドネシア、ベトナム、モロッコ、アメリカ、香港など、さまざまな国籍のママ・パパ・子どもたちが集い、子育てで使う日本語を学んだり、日本人のママたちとお互いの国の子育てについて情報交換をするなどして、交流を楽しみました。



中央に子ども用のおもちゃスペースを作って見守りながら、互いの国の子育てについて語り合いました！

1月15日(水)「子育ての日本語」

5組10名参加

小児科で使う日本語（予防接種や病状の説明など）、保育園で先生と話すための日本語（子どもの性格のことや園での様子など）、出産時に病院に行くタイミングや救急車の呼び方などについて学びました！

2月13日(木)「子育てのことを外国人ママと一緒に話そう！」

12組28名参加

「お行儀がよい」ってどんなこと？、「離乳食の進め方は日本と外国でどう違うの？」、「いつ頃から大人と同じものを食べさせる？」、「外国人ママは、日本人から話しかけられるのはどう思う？」など、お互いたくさん質問をしました！最後はママ同士が連絡先を交換するなど、輪が広がりました！



国籍関係なく、交流を楽しみました！

「育休中に外国人と交流ができて視野が広がった！」、「子どもに国際交流をさせてあげられる場は少ないのでありがたい」



日本人ママの声

「日本の子育てについて分からないことがたくさんあったので、知ることができてよかった」、「日本人ママと友だちになれてうれしい！」



外国人ママの声

令和7年度 事業計画

事業	内容	時期(予定)
国際交流ボランティア	語学、ホストファミリー、文化、事業、日本語の各ボランティアの登録・紹介	随時
ホームページ等による情報発信	在住外国人向けの生活情報やセンター事業等について発信	随時
会報誌「国際交流つうしん」の発行	当センターの事業や国際交流・多文化共生に関する情報等を紹介する会報誌の発行	7月,11月,3月
千葉県外国人相談	在住外国人の電話・来所による生活相談への対応(13言語)	随時
外国人のための無料法律相談	外国人の生活上の法的問題に弁護士、行政書士が対応、通訳手配も可 (原則第1・3月曜日。行政書士は奇数月)	毎月
ちば多文化みらい共創講座	外国人講師による出身国の紹介と、ディスカッション等を中心とした交流授業の実施	随時
日本語学習支援者基礎研修	初心者を対象に、必要となる基礎的な知識や素養を養うための研修	6～3月
日本語学習支援者フォローアップ講座	日本語ボランティアの指導力向上を図る講座	6～3月
千葉県地域日本語教育フォーラム	県民を対象に地域日本語教育の理解を深める為の講演、参加者間の交流・意見交換	年1回
語学ボランティア研修	MICE関連事業やスポーツ大会等におけるボランティアとしての活動を見据えた研修講座	年1回
外国人相談基礎知識研修	在住外国人の生活支援に役立つ、基礎的事項を学ぶ講座	年1回
外国人相談担当者意見交換会	県内の外国人相談担当者向けの講演・情報交換	年1回
国際理解セミナー	県民に広く、国際理解を図る講座	年2回
国際交流・協力等ネットワーク会議	市町村、市町村国際交流協会、民間国際交流団体等による情報交換	年1回
災害時外国人サポーター養成講座	災害時に外国人をサポートする人材を育成する講座	年2回

野田市国際交流フェスタでJICAブースを出展しました

2024年12月15日に野田市総合福祉会館（野田市中央公民館）で「野田市国際交流フェスタ」が開催されました。会場では、講演会や中学生のスピーチ、ワールドカラオケなどが実施され、市内外からの来場者で賑わいました。JICAからは「JICA海外協力隊（※）」の紹介ブースを出展し、野田市にゆかりのある現役隊員の生活の様子や活動を紹介しました。派遣中の隊員から寄せられた派遣国に関するクイズは大好評で、答えを知って「え～！？」と驚く声も上がりました。



詳細はこちら

ブースの展示には、帰国した協力隊員が現地から持ち帰ってきた教科書や民族衣装、写真なども！どれも貴重なものばかりで、子どもからお年寄りまで足を止めて楽しんでいただけた様子でした。地域にゆかりのある協力隊員の活躍を知ってもらうことを通して、世界を身近に感じるキッカケになれば嬉しいです。



パラオ・ウガンダに関するクイズに挑戦

JICA海外協力隊経験を活かして南房総で活躍！

JICA海外協力隊（※）としてルワンダに派遣されていた南房総市在住の相川武士さんからのお便りをご紹介します。



岩井駅前交流拠点 boccsの外観

2013年にルワンダから帰国後、東京でITや貿易の仕事をしていましたが、結婚して子どもが生まれたのを機に千葉県南房総市に移住しました。南房総市では2017年から3年間、地域おこし協力隊として主にインバウンド観光推進に取り組みました。

地域おこし協力隊の任期終了後は、「岩井駅前交流拠点 boccs（ボックス）」という多目的交流施設を立ち上げ運営し、世界の問題やSDGsについて学ぶ映画上映会やワークショップを開催したり、子どもたちに勉強を教えたりしています。地域の学校で外部講師として授業を行うこともあります。一昨年には南房総とルワンダの中学生のオンライン交流会も実施しました。



ルワンダの中学生とオンライン交流

※JICA海外協力隊とは？

JICA海外協力隊は、開発途上国からの要請に基づき青年海外協力隊等として派遣され、現地の人びとと共に途上国の課題解決に取り組むことを目的としています。任期は原則2年間で、これまで世界99か国に5万6000人以上の隊員を幅広い分野に派遣してきました。帰国後は、日本や世界で協力隊経験を生かした活躍が期待されています。

JICA千葉デスクへのお問い合わせは以下までお願いいたします。

千葉県国際交流センター内 JICA千葉デスク 笹瀬 正樹

TEL：043-297-0245 / 090-4024-0441

FAX：043-297-2753 E-mail：jicadpd-desk-chibaken@jica.go.jp





千葉県から世界へ!

ルワンダ共和国



※外務省ホームページより引用

今回は、JICA海外協力隊としてルワンダに派遣中の金城敦乃さん（流山市出身）からの寄稿です。遠いアフリカの地で、ルワンダの特産品の1つであるコーヒーの生産や普及に取り組む金城さんが、現地での生活や活動について教えてくださいました。

常春の内陸国、ルワンダ

「ルワンダ」という国の名前を聞いたことはあるかもしれませんが、アフリカのどの辺りにあるかご存じでしょうか？ルワンダはアフリカ東部に位置し、国土面積が四国の1.5倍程度の小さな内陸国です。一年を通して「常春」と言われる温暖な気候で大変過ごしやすく、気候と同様に人々も穏やかです。人口の6割以上が農業に従事しており、主要輸出産物の一つにコーヒーがあります。

現在、私はルワンダ東部のカヨンザ郡カバロンドセクターで、コーヒーの収量・品質向上を目指し活動しています。また、コーヒーを飲む習慣の無い任地の人々に対して、コーヒーの普及活動も併せて推進しています。



任地カバロンドセクターの町並み

コーヒー生産国での隊員活動

普段はコーヒー農家やコーヒー加工場を訪問して一緒に作業をすることが多く、現地語であるキニアルワンダ語でのコミュニケーションに悪戦苦闘する毎日です。普段の活動に加えて、ゲスト講師として職業訓練校でコーヒーに関する授業を行うなど、様々な活動を実施しています。

耕作や収穫、選別などの作業が機械ではなく、人の手で行われている様子を実際に目にし、コーヒーが消費者に届くまで沢山のルワンダの人々の時間と労力がかかっていると実感しました。もし日本国内でルワンダ産のコーヒーを見かけることがありましたら、その際はぜひ一度手に取っていただけると嬉しいです！

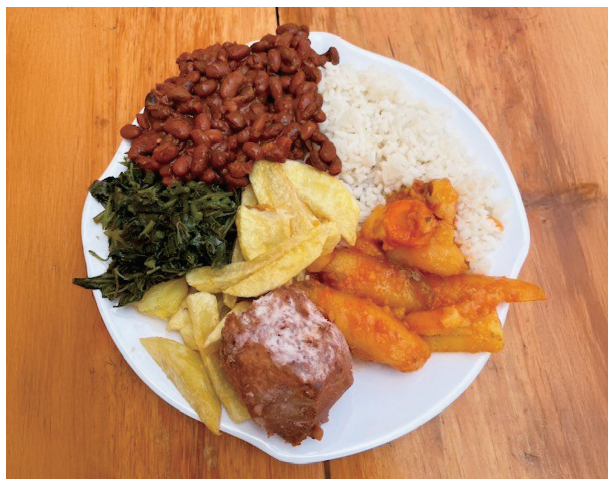


加工場スタッフによるコーヒーチェリー（実）の出張買取

ルールが独特なルワンダビュッフェ

ルワンダのレストランでは注文から提供まで1時間待つこともしばしばですが、時間の惜しい昼時に最適なのが「ルワンダビュッフェ」です。メインは調理用バナナ、イモ、コメといった炭水化物ばかりですが、どの料理も塩やトマトペーストを使ったシンプルな味付けのため、思った以上に食べられます。

ルワンダビュッフェは「おかわり禁止」であり、文字通り、お皿に盛ることができるのは一度だけです。そのため、この形式に慣れているルワンダの人々は、山のように料理を盛っていきます。お腹の減り具合と相談するのは勿論ですが、多めに盛るのがコツなのかもしれません。



ある日のルワンダビュッフェ



公益財団法人 ちば国際コンベンションビューロー 千葉県国際交流センター

〒261-8501 千葉市美浜区中瀬一丁目3番地 幕張テクノガーデンD棟14階
TEL: 043-297-0245 FAX: 043-297-2753 E-mail: ied@ccb.or.jp

<https://www.mcic.or.jp/へgo!>

センター事業の紹介、最新ニュース、講座やイベントなど役立つ情報を掲載。

年3回発行
(7,11,3月)